

「人材開発支援助成金」の活用例①

建設現場の生産性向上を目的とした人材育成への活用

業務改善を実行し人手不足の解消と生産性の向上を実現した企業が、更なる生産性の向上を実現するため、企業内の人材育成に「人材開発支援助成金」を活用できる事例を紹介します。

建設現場で抱える課題

- **深刻な人手不足**
残業時間が多く休みも取りづらいため、ライフイベントに伴う従業員の離職も多いが、駅から離れた立地も多いことや、現場のイメージなどから求人が難しい。特に、工程管理などを行う「現場の要」である現場監督が深刻。
- **現場監督の業務が過大**
原因のひとつが、**現場管理業務以外の膨大な書類作成業務**。
求人難しさから**事務作業の担い手が少ない**ことも、現場監督に業務が集中する要因。

課題解決に向けた業務改善

- 膨大な書類作成業務のうち、**現場以外で、建設現場での経験がなくてもできる業務**（CAD等の一定の資格を有していれば行える業務）を切り出し。
- 駅近に**サテライトオフィス**を設置し、複数の現場から切り出した**書類作成業務を集約**。1オフィスあたり5～8現場分を集約し業務を平準化。
- 定期的に**業務改善や効率化の検討**を行い、優れた事例は**オフィスと現場の垣根を越えて情報共有**。

人手不足の解消と生産性の向上

- サテライトオフィスは、残業もなく、職場も駅に近いことから、**新規採用が行いやすい**。就業時間に制限がある子育て中の女性などの応募も増え、**事務作業の担い手不足も解消**。
- 現場では、監督業務を行う従業員が本来業務に集中できるようになり、**モチベーションアップ・残業時間の大幅削減**（改善前と比較して68%減少）を実現。
- サテライトオフィスでのノウハウ蓄積と積極的な業務見直し・好事例の共有を行い、**生産性の向上を実現**。

人材開発支援助成金の活用方法

「人材開発支援助成金」は、事業主が従業員に対して職務に関連した訓練を実施した場合に、**訓練経費や訓練期間中の賃金の一部などを助成**しています。

上記の取り組みでは、新規採用した従業員などを対象に、業務に必要なCADの知識を身につけることを目的とした研修を実施する場合に、助成金を活用することができます。

<助成金活用のメリット>

- **助成金を活用して人材育成を行うと、研修等の費用負担を抑えることができます。**
- 研修を受講した従業員は、スムーズに業務に取り掛かることができます。また、**指導に当たる従業員の負担も軽減**され、生産性の維持・向上も見込まれます。

